福島町の議会だよりから学んだこと

― 議会基本条例諮問会議顧問　神原（かんばら）　勝（まさる）氏　寄稿文 ―

議会基本条例諮問会議
顧問　神原　勝 氏
（北大名誉教授）

福島町議会の優れた活動は全国的に知られていますが、その内容について聞かれたとき、私はいつも「百聞は一見に如かず、まずこれを見てほしい」といって「福島町議会だより」を示します。本町の議会だよりを読ようになって長い年月がたちますが、「議会白書」と一緒に全部保存しています。

以前、ある自治体関係の専門誌から議会広報のあり方について執筆を依頼されたとき、私は迷わずこの議会だよりを読み返して内容を紹介しました。そして「優れた議会改革なければ優れた議会だよりなし」と、本町議会から学んだ教訓を結論として書きました。それ以来よくこの言葉を使っています。

昨年11月に札幌で私も所属する研究会が「議会は住民に何を伝えているか」をテーマに議会フォーラムを開きました。改革先進地として評価の高い本町や栗山町、芽室町などの議会広報を読んで、情報公開の手法や議会改革の到達水準を学ぼうと考えたのです。

各議会についての報告は、議会の当事者にお願いすれば評価が控え目、遠慮がちになりはしないかと心配し、研究会メンバーが行ないました。私は議会基本条例諮問会議の顧問として本町議会と長くお付き合いさせていただいている関係から本町を担当しました。

どこの議会だよりも、議員の一般質問と長の答弁、委員会の事務調査の模様、予算の議決や決算の認定などを掲載し、また、近年は住民と議会の懇談の模様や議案に対する議員個人の賛否の態度、各種議会行事への議員の出欠の状況などを掲載する議会が増えています。そこでこれら以外に私が感じた本町議会の特色を以下に２、３点あげてみます。

まずは改革意思の強さと不断の継続です。議会基本条例にも書かれた40数項目の重要事項の推進状況を毎年点検、改善し、その内容を一覧表にして公開しています。住民参加（議会基本条例諮問会議など）による改革の推進と公開へのこだわりは群を抜いています。

次は政策をめぐる議論の徹底した公開です。本町は政策の基本である総合計画を議会で議決し、計画にない事業は予算化しない優れた原則を立てて町政を運営しています。ですから議会の政策活動が活発です。地域の課題を政策で解決するのが自治体の使命ですが、一般的にそうなっていない現状を変えるために、私はかつて「政策議会」という言葉をつくりました。

私は現在の本町議会はこの政策議会のレベルに達していると評価しています。これを可能にしているのは議員間の活発な政策討議と合意の形成、次いでそれを議会全体の政策意思としてまとめた多数の政策提言の実行です。議会だよりを読めばこれらの政策プロセスがよくわかります。

政策討議の主な舞台は常任委員会ですが、ここでは行政が行なう政策評価の再点検、議会が独自のテーマを設けて行なう調査、住民懇談会で提起された課題の吟味と政策化など多彩に議論が展開されます。くわえて、議員が行う一般質問に対する町長答弁の事後の対応状況を追跡する調査も議会の政策の仕組みとして実施し議会だよりに掲載しています。

全体を通していえることは、本町議会は議会運営と政策議論のしくみが議会の土台としてしっかりできているということです。公約といえば４年に１度の「選挙公約」が定番ですが、本町の議員は毎年、議会だよりで「年度公約」を行ない、その年に力を入れる事柄を住民に具体的に示して活動しています。これができるのも議会の土台がしっかりしているからです。

最近の議会だよりを読むと、本町議会は、議員のなり手不足対策に力を入れています。この問題は多くの町村議会が抱えている問題ですが、過日、ある町の現在２期目の議員が訪ねてこられたとき、「議員に出るとき自分にやれるか不安があったが、議会の基盤がしっかりできていたので新人議員でもいろいろ仕事ができた」と振り返っていました。

私は現在の本町議会はこの町以上に、新人議員が出て活躍しやすい議会ではないかと思っています。町民のみなさんがどうこたえられるか、次の選挙が楽しみです。